

実行委員会ニュース

発行 首都圏高校生集会実行委員会

<http://syutokenko-ko-sei.jimdo.com/>

第2号

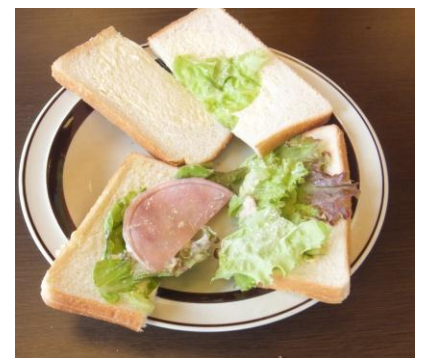
実行委員会は何をしているの？

前回の「創刊号」では今までの主な活動を紹介してきました。「なぜ創刊号で活動紹介なの？」と思われる方も多いと思いますが、私たちの活動を知っていただくには、まず『どんな活動をしてきているのかを紹介したほうが親しみやすい』と考えたからです。最初から「実行委員会を一緒にやりましょう」と言う事を書いても、ただの「勧誘」にしかありません。まだまだ私たちのグループは知名度が低く、「どんな団体なのか分からない」と不安を持たれるだけだと思うのです。私たちの活動は主に国会に高校生の声を届けることにありますが高校生の生活実態などを調べ、告発し安心して高校生活が送れるように条件整備し



ていくことも課題となっています。学習権保障を求めて毎月一度、国や関係省庁の最近の動きや高校生の思っていることや、願っていることなどを話し合う会議を設けています。その会議では、そのつどの情勢の変化をまず報告として、みんなで聞き今後どのような活動をして行こうかと話し合いをしています。最近では、「教科書代が高い」「資格取得の検定代が高い」などの声が出ています。専門学科では特に普通

科と比べて実習費や副教材代や資格試験費などが半端無くかかることが分かりました。また、検定試験のためなどで補習授業があったり、部活があったり、アルバイトをして家計を支えているという、実に忙しい生活実態の話が出ました。そこで、生活実態アンケートを取ろうという話も出てきています。会議ではよく昼食をつくったりしながら交流をしています。会議では平均して10人ぐらいは参加するので大体が『カレー』になっていますがサンドイッチを作ったりその時々で創作料理を高校生が作りみんなで楽しんでいます。



奨学金を借りればいいのか？ 大学生より

現在、私たちが「奨学金」と聞いたらそれは「在学中にお金をかりて卒業後に返さなくてはならない」ものだという認識の人がほとんどだと、私の周りや社会を見ていると思います。

ごく一部では返さなくて良い給付型の奨学金を行っている財団などはありますが、それに受かるにはまず書類の審査があり、その他にも面接があります。成績要件が必要な場合がほとんどです。つまり貧しくて、「学力」(テストで計ることのできる薄っぺらい力)のないものは大学になんか行ってはならない、と言われているようなものですね。しかしこの給付型の奨学金に受かっても額としてはかなり低く、奨学生の中には、日本学生支援機構の借金までせざるをえない人まで存在しています。そしてその貰えたお金が本当に学費のために使われているのかということも実際はあやしいです。奨学金をそのまま生活費にせざるをえない学生の話や親に勝手に使われてしまうケースも聞いたことがあります。給付型の奨学金でさえこのような現状です。私も給付型の奨学金を民間財団からもらっています。しかし授業料のメドはたちましたが、交通費や教科書代が本当に大きな負担となっていて、さらに給付型の奨学金に受



かるぐらいの家計の苦しさもありいつ大学を辞めなくてはいけないのだろうかという不安を抱きながら大学に通っています。しかも大学を辞めたり留年したならばその奨学金は返済義務が生じます。給付型の奨学金をもらえても決して、決して未来は明るいとは言えません…。

では日本学生支援機構の奨学金（ただの学生に対する借金、教育ローン）はどうでしょうか。学生の半分近くが借りているこの教育ローンは無利子と有利子がありますが有利子が 75%と無利子の枠はとて狭くなっており、希望者が殺到しているために無利子の枠から外れ、有利子の奨学金を受けなければならないこともあります。教育を受けるための借金でもおかしいのに、さらに借りた額からさらに利子をつけて返さなくてはいけないのはありえないでしょう。利子があるということはこの学生に対する教育ローンは大きな市場となっているということです。教育は今や未来の日本を担う子どもへの投資ではなく、ビジネスとなっています。奨学金という名の借金は卒業後重くのしかかり、その中で仕事もだんだんなくなってきている。卒業したはいいもののお金を返せず、取り立ての厳しい日本学生支援機構の奨学金はブラックリストに載るまでになっています。このような現状で安易に奨学金を借りて大学に行けばよいという声はどれほど無責任で子どもを切り捨てているのかが分かります。未来を支える子どもへの支援をしない国に未来はない。給付制奨学金が創設されることを私は願ってやまないし、これを実現することは未来の子ども達に対する義務である。私も給付制奨学金実現に向けて努力をしていきたいと改めて文章を書きながら決意した。

授業料無償化への動向

2012年2月の国会において日本政府は高校・大学等の中等・高等教育を段階的に無償化する「国際人権規約第13条2項について、その留保を撤回する手続きを進めること」を表明しました。批准160カ国の中で保留国は日本とマダガスカルの現在2か国だけとなっています。2001年にも国連人権理事会から留保撤回するよう勧告されていたながら曖昧にしてきました。2010年から実施の授業料無償化法（全日制36ヶ月、定時制、通信制48ヶ月）が実施され、その法からはみ出た人への対応は留年生、過年度生や休学者、一度高校を卒業後再び入学した生徒から徴収しています。その数は約2400名（内9割は定時制生徒）います（2011年度日高教、授業料不徴収調査結果）。現在、法は自治体任せであるために完全無償化のところや法の枠内のみ不徴収などと様々であり、一貫しているわけではありません。無償化を打ち出した際に「社会全体であなたの学びを応援します」と政権公約をしてきました。教育の無償化の一步前身であると思います。授業料無償化になったことで経済的な理由での高校中退の生徒数が減少したことは言うまでもありません。しかし、学校納付金はPTA会費、後援会費、設備費など全日制高校で20万円、定時制が10万円もあり、その滞納率は減るところか増えています。「無償化になったけどアンケート」でも無償化になる前よりも支払額が増えた生徒も多くなります。生活苦から授業料減免になっていた生徒はPTA会費なども減免になっていましたが制度がなくなり、経済的に困難な生徒の家計をより苦しめています。また、特定扶養控除制度がなくなり今年7月から税金が増えています。月収20万円の家庭で高校生が1人居ると2580円、2人では倍の5160円負担増になります。その為、



奨学金を借りると前述の大学生が語るように借金として重くのしかかります。あくまでも「公立高校の授業料」のみの無償化であり私学などでは公立高校の授業料と同額の金額だけが無償になっただけで、無償化には程遠い現状があります。授業料以外の諸経費はいまだに徴収されており、家計への負担はまだまだ大きいものがあります。

この時期、高校や大学を卒業後、正規で採用される率が少ないため収入が低く安定した収入が得られず、また家庭での別の借金も背負っているため奨学金を返済できない人が1万人以上に達しているのも現状です。早期に給付型奨学金を創設して安心して学べるようにしていくことが必要になっています。

東京 学費無償化プロジェクト 紹介

学費無償化プロジェクトは昨年秋に結成した東京の高校生グループです。日々の活動はいろいろな新聞記事を読み合わせしながら学習に励んでいます。昨日 4 月 22 日に行った会議を今回紹介します。

会議の目的

- ・「学プロ」の活動を開始してから半年がたち、これまでの取り組みの到達点と確信点を明らかにする。その上で、今後の活動の目標や節目を考える
- ・首都圏実行委員会の会議にむけて、東京のメンバーとしてやりたいことをまとめる

到達点の確認と、今後の目標

一 確 認 一	<ul style="list-style-type: none">・署名は 750 筆を超えた。取り組む中で、「知らなかった！私も協力するよ」などの声がよせられ、周りの友だちを励ましている・国際人権規約の留保撤回を政府が言い出すなど、世界と日本の発展方向は、「学プロ」の運動と一致している
一 目 標 一	<ul style="list-style-type: none">・今年中に署名を 2000 筆集める …・首都圏実行委員会のアンケートを最終的に 100 枚集める … 授業料無償化になったけどアンケート



本日の学習

——以下の 2 点を、新聞記事などをつかって学習

- ①日本の高学費が貧困の連鎖を深刻にしている
- ②「三党合意」後の、高校学費をめぐる国会の動きと、国際人権規約の留保撤回を言いはじめたこと

Dくん

学費は無償化とか言いながら、まだまだされていないと思っている。日本で生活していると、なにをやるにも「お金がかかるから」って事ばかり考えている。

学費を稼ぐためにバイトしていたら、学習に集中できなくなる。自分の家は余裕がなかったから、高校も大学も私立は論外だった。私立に行っている人は余裕がある人だっというイメージもあって、俺は違うけど、悪い目でみている人もいる。

Mさん

うちは確実に年収が高くない。

最初から私立は考えていなかった。兄は都立で上のほうを狙っていたが、落ちてしまって私立に行くことになった。

学費だけでなく制服も高かったらしい。進学にお金がかかったり、選択が狭くなるのはモチベーションが下がってしまう。

浪人する人が多くて悩んでいる。

大学にいったら留学したりとか、海外の貧困で困っている人とかにボランティアをしたりしたいけど、それでもお金のことを考えてしまう。



Cさん

運動するって決めた時も、学費に納得していなかった。ちゃんと学校に行っ勉強しているのに、「自分のため」みたいなことを言われながら払わなきゃいけない。別に私が勉強しているのは自分のためだけじゃない。働くのも自分のためだけじゃない。この社会をつくりたいと思っている。

教育の無償化を求める高校生からのお願い

「お金がないと学校に行けないの」首都圏高校生集会実行委員会（以下実行委員会）は、教育の無償化を求める高校生が中心につくる高校生グループです。

実行委員会では教育の無償化を求める活動を 2008 年からしています。親のリストラなどで学費が払えずお金がないために高校を退学せざるを得ない友だちを減らしたい、お金がないために昼間働き、夜間定時制高校に通い、早朝、深夜や休日は学費・生活費のために働いている生徒が多くいます。またお金がないために大学等の進学をあきらめてしまう生徒がいます。兄弟姉妹の進学を優先するために学校を辞めて学費を工面するために退学する生徒も居ます。「生活費アンケート」を全国の高校生から集めて、その生活実態を告発してきました。お金のことで高校生活が不安となっている生徒は 4 人中 3 人も今なおいます。

お金がないために部活ができない、病院に通院できない、修学旅行に行けない、通学費が工面できないので欠席する、生活のためにアルバイトをしなければならない生徒が実に多くいます。そして、減免申請したがけど許可にならなかった生徒や奨学金を申請したがダメだった生徒もいます。

実行委員会は、誰もが同じ教室で、お金の心配をすることなく安心して学んでいける、そして教育を受ける権利は平等であると考えています。

実行委員会は教育の無償化を求める署名やバレード、高校生集会や国会要請行動など行ってきました。

2010年より高校授業料は実質不徴収となりましたが、高額な学校納付金（PTA会費、後援会費、学年費、進路費、補助教材費など）は対象外のため依然としてあり生徒や保護者等を苦しめています。お金を一括して納める事が求められており支払ができなく困難な生徒が多くいます。滞納率はますます高まっています。私たちが現在も継続して集めている「授業料が無償化になったけどアンケート」からも、無償化になる前よりも支払額が増えている生徒は 40 人に 1 人の割合（2.5%）でいます。経済的に困難だった生徒が、今より困難になってきている実態があります。私たちが声を上げていくことで多くの高校生が救われ助かっています。

私たちは教育の無償化を求める活動をするのに、その日のアルバイトを休み、交通費をかけて署名活動などしています。

私たち高校生集会実行委員会の活動を支えるためのカンパをお願いします。

私たちの活動にお力をお貸しください。

「お金がないと学校に行けないの」高校生集会実行委員会

実行委員会では ゆうちょ銀行 に口座を開きました。一口 500 円お願いします。

郵便振替	記号	10910
	番号	9640071
	名前	首都圏高校生集会実行委員会 (シュトケンコウコウセイシュウカイジッコウイインカイ)

他の金融機関から

店名	098
店番	098
種目	普通口座
口座番号	0964007
名前	首都圏高校生集会実行委員会 (シュトケンコウコウセイシュウカイジッコウイインカイ)



写真は給付型奨学金を求める 33 団体の記者会見での高校生です。